

## キンバングスム教会

おやさと研究所教授  
森 洋明 Yomei Mori

1900年代になると、アフリカのほとんどの地域がヨーロッパの列強国によって分割されていく。そのなかで、植民地化に対するアフリカの抵抗運動は、呪術やお告げに依拠したものから、植民地統治によって変容する社会を反映した形でなされていく。その一つとして、サブサハラアフリカに広がったキリスト教の「現地化」によってできた宗教運動が挙げられる。今回はその一つの例として、コンゴを中心に広がったキンバングスム教会を見ていきたい。

キンバングスムの創始者であるシモン・キンバング (Simon Kimbangu) は1887年9月12日、コンゴ民主共和国のンカンバ (Nkamba) に生まれた。アフリカを分割するベルリン会議の開催が1884年～1885年のことだから、彼の生涯はヨーロッパによる植民地化と重なっていた。とくにベルギー領コンゴでは、以前に本稿でも触れたように、1908年までベルギーのレオポルド2世の「私有地」として、現地住民に対し過酷なノルマを課したゴムの採取が行われ、多くの犠牲者がでたところである。

教会の説教師になるための教育を受けていたキンバングは、21歳のとき神 (Seigneur) のメッセージを初めて受ける。それは「キンバング、この人々を救済するためにお前を選んだ。お前はこの迷える羊たちを私のところへ導くように。」というものだった。彼が住んでいたバコンゴ (Bacongo) 地区ではその当時、スペイン風邪が猛威を振るっていたようである。彼はこの神のメッセージに対し「私はそれに値しない」と断り、逃げるように村を離れ、仕事を求めてレオポルドヴィル (現在のキンシャサ) に行った。そこで日雇いの大工やボーイなどさまざまな職に就くのだが、彼に聞こえてくる神の声はますますそのトーンが厳しくなり、3年後の1921年、24歳になった彼は神の意志に従って生まれた村に戻るのだった。そして4月6日、彼はそこで決定的な神の声を聞くことになる。

それは、彼が市場へ出かける途中に、重症で床に伏せていた婦人を訪問したときのことだった。「キンバング、お前はこの婦人を助けることなくして、この家からでることはないだろう。」と神から告げられるのだった。神は続けて「彼女に手を当て、神の名を唱え、彼女を救いなさい」と言い、キンバングがそうすると、彼女は病気から快復した。その後も彼は、さまざまな奇跡を起こす。視力を失った人が見えるようになり、歩けない人が歩けるようになった。中には死者さえ蘇ったこともあったという。「お前に聖書を授ける」との神のメッセージを受けた彼は、聖書を用いて、神や隣人に対する愛を説き、また助け合いの精神を人々に論じていった。人々は彼のことを「ンゲンザ」 (Ngunza、キコンゴ語で「預言者」と呼び、救済を求めて彼の下に集まるようになっていく。こうして、寒村であったンカンバには、数万人が集まることになっていった。

こうした動きは一方で、植民地支配に対する抵抗の機運と連動し、納税の拒否や強制労働に対する反対運動となっていた。また「黒人の解放」や「黒人が白人になり、白人が黒人になる」といったキンバングのメッセージは、植民地政府だけでなく、「未開」とされたアフリカ社会をキリスト教化によって「文明化」しよう

とするカトリック教会にとっても危険な思想と映っていく。

彼は1921年9月12日、反乱の容疑で捕まり、死刑判決を受けた。それは彼が神の声を聞き、それに従って宣教し始めてから5カ月目のことだった。その後、ベルギーのアルベルト1世の王の赦免によって、むち打ち120回と終身刑に軽減されたものの、エリザベートヴィル (現在のルムンバシ) で30年間に渡って獄中生活を送り、1951年10月12日、獄中死する。捕らわれた彼を慕う人々が集い、やがてそれは植民地からの独立の動きと呼応し、コンゴにおけるナショナリズムの象徴となっていくのであった。

キリスト教から派生し現地化した宗教による反植民地の動きとしては、リベリア生まれでコートジボワールで活動したウィリアム・ハリス (William Harris、1860～1929) やナイジェリアで「天上のキリスト教会」 (The Celestial Church of Christ) を創設したサミュエル・アショファ (Samuel Oshoffa、1909～1985)、またコンゴ共和国のアンドレ・マツワ (André Matswa、1899～1942) のような、後に「アフリカ独立教会」と呼ばれるものがある。植民地統治下で自由を奪われた人たちが「メシア」 (救世主) の到来を期待するなかで、新たな宗教を生み出すことになったのではないだろうか。文明化の「手段」としてのキリスト教化が、逆に被支配者たちに新たに精神的「武器」を与えたことになったと言えるかもしれない。

キンバングの死後、彼の子どもたちや彼を慕う人々によって、キンバングスムの組織が形成されていく。コンゴ民主共和国が独立する半年前の1959年12月24日、このキンバングスム教会は国から正式に承認された。そしてこの日がキンバングスム教会の正式な設立日と定まった。ただ、それに先だって、隣国のフランス領コンゴ (現在のコンゴ共和国) では、すでにキンバングスムの最初の教会がボコ (Boko) に設立されている。その背景には、フランス領コンゴでは、独立時に大統領に就任する司祭でもあったフルベール・ユールーによって、1959年2月、信教の自由がすでに認められていたからである。この出来事はまた、1921年にキンバングが言った予言とも合致することでもあった。その予言とは「すべては、コンゴ・ブラザヴィルから始まる」 (Tout va commencer par le Congo-Brazzaville.) というものだった。

この予言を聞いた人たちは、おそらく今日のような「隣国」としてのコンゴ・ブラザヴィルという意識はなかったのではないだろうか。なぜならその地域一帯は、植民地以前はコンゴ王国の領土内であり、キコンゴ語という共通言語が話されていたところでもあるからだ。実際、ブラザヴィルの南西に位置するボコは、キコンゴ語が話されている地域である。しかし、1960年になり植民地から独立を果たすときに、これらのキコンゴ圏は、別々の国としてそれぞれに異なる歴史を辿っていくことになる。

キンバングスム教会の本部は、キンバングの生まれ故郷であるンカンバに置かれ、そこは「新エルサレム」と呼ばれている。信者数は数千万とも言われており、赤道アフリカ一帯だけでなく、移民によってヨーロッパやアメリカにも広がっている。